

## Panasonic NPO/NGO サポート プロボノプログラム

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/probono.html>

パナソニックは、2011年4月より従業員の仕事のスキルや経験を活用してNPOを支援する「Panasonic NPO/NGO サポートプロボノ プログラム」を開始。従業員のボランティア活動として、社会課題の解決に取り組むNPOの事業展開力の強化を応援し、NPOの活動がさらに大きな成果をあげるこ

とを目指している。これまで、中期計画策定やマーケティング調査、ウェブサイトの再構築などを支援。本活動を通して、従業員の社会課題や多様性への理解が深まり、自己効力感・主体性が高まるなど、仕事にも活きる経験となっている。

NPOを  
強くする



# NPO、「プロボノワーカー」と出会う。 適度の緊張感、多様なキャラクターとの協働作業による 刺激と創造

NPO法人「花と緑のネットワークとよなか」は昨年、プロボノチームの支援を受けて、ホームページのリニューアルを行った。

「プロボノ」とは、一般社会人が自身のスキルや経験を生かして行うボランティア活動で、新しい社会貢献のかたちとして注目されている。関西で本格的に始まった「NPO×プロボノワーカー」の新たな出会いは、両者にどのような化学反応を起こしたのか。プロジェクトを終えた同団体とプロボノチームに取材した。



「花と緑のネットワークとよなか」  
代表理事 高島 邦子さん



「花と緑のネットワークとよなか」  
事務局長 中村 義世さん

## 発足から10年。 継続のためには変わる必要があった

「いやー、正直、最初はプロボノプログラムに参加するかどうか迷ったんだよね」

そう打ち明けるのは、NPO法人「花と緑のネットワークとよなか」（以下、「花と緑」）事務局長の中村義世さん。つられるように、同代表理事の高島邦子さんも「説明会に行って、ウチはやめておこうって言ったのよね」と二人して笑う。

というのも、今回のプロボノプログラムはNPOのウェブサイト構築を支援するものだったが、同団体ではホームページの情報発信は限定的。日々の広報活動はブログを中心に行っていたことから、「今さらホームページを大改造するのは大変すぎる」と二の足を踏んだのだ。

ただ……。組織を客観的に眺めれば、「大きな課題はあった」と二人は口をそろえる。任意団体の活動を経て「花と緑」が発足したのは、02年。資源循環型地域形成を目指して、生ごみの堆肥化実験を市民提案したのをきっかけに、学校給食の食べ残しに街路樹の剪定枝を混合した土壌改良材「とよっぴー」を頒布・有効活用する団体としてスタートした。活動を続けていくう

ちに、「とよっぴー」を使って花づくりを行う「花いっぱい運動」や野菜の直販活動、さらには家庭生ごみの堆肥化推進運動、「とよっぴー農園」での環境体験学習など、事業内容は多岐に広がった。多種多様な事業を展開する中で、それらを支える活動資金と人手を、今後、どう安定的に確保していくのか。発足から10年近くが経ち、組織基盤強化の問題は避けては通れない課題だった。

「私たちの活動はボランティアから始まって、有機物資源を地域で循環させる小さなモデルケースをつくりたいという思いひとつでやってきたんですね。盤石な組織はなくても、活動が広がることに自分たちは達成感を感じていたし、むしろ無償の奉仕こそ美德とも思っていた。でも、活動を継続していくには、事業と収益のバランスを考えてマネジメントしていく必要があるし、これからは無償の美德では団塊世代以下の若い人たちはついてこない。自分たちの組織も変わらなアカンなと思っていたんです。会員数の拡大やボランティアの裾野を広げるには広報活動が大事だけど、ホームページはほとんどアクセスがない状態で、かといってリニューアルするには自分たちでは限界がある」。そこで、「プロボノチームにお願いし

てみることにしたんです」と中村さんは当時を振り返る。

## ユーザー目線。 活動への参加、誘発するホームページ

支援を受け入れたのは、昨年4月。プロボノを希望していた5人がマッチングされ、「週5時間程度、約6ヵ月間」の活動を目安にプロジェクトがスタートした。チームはオールパナソニック社員だったが、職場や職種も違い、全員が初対面。プロボノには、それぞれの思いで参加していた。

「普段の仕事以外の世界にアンテナを張る中で、NPOのマネジメントに興味があった」というのは渡辺久晃さん。一方、仕事に余裕ができ、興味本位で参加したという藤原智子さんは「経営企画という仕事柄、自分にもできることがあるかもしれない」と思った。また、大坪里実さんは「子育てと仕事の往復で、社会的な視野の狭さを感じていて、自分の勉強のために参加した」と話す。

チームは、まずホームページのコンセプトづくりのため、団体を取り巻く66組のステークホルダーにヒアリング、アンケート調査を行ったが、その中で「花と緑」の活動が地域の人々にいかに大切にされているかを実

感した。『「ここだけの話、団体への不満や要望は？」と聞いても、返ってくるのは感謝の言葉ばかり。誰一人、悪く言う人がいないのは驚きだった』『イベントに参加する子どもの笑顔と、それをうれしそうに見ているボランティアの方々の姿がとにかく印象的。こんなふうに陰で地域を支えているNPOがあるんだと思った』

マーケティング調査を経て、チームは中間提案を行い、その後、具体的な制作に入った。プロジェクトマネージャーを務めた渡辺さんは、「ホームページを通じて会員やボランティア層を拡大したいという要望だったので、団体のニーズやターゲットを整理して詳細な分析・検討を行いました。特にホームページの構成や文面は、見る人のユーザー目線を意識して、一般の人の関心事を軸に惹きつけていく内容にした」と話す。

一方、団体側の高島さんは、プロボノの仕事ぶりに終始、感心しきりだったという。「最初は、客観的にアドバイスをくれるんだろうくらいの受身姿勢でしたが、きっちりチームを組んで、一つひとつ丁寧に問いかけてくれて、資料も期限通りに直球勝負でポンと返ってくる。もう、本当にプロやと思いました。そういうのを目の当たりにすると、自分たちはちょっと甘えたところがあったかなと。文章を書く時も、私たちの場合は思いが先行して『自分たちは、こうしてます』的な表現



大坪 里実さん



渡辺 久晃さん



藤原 智子さん

ばかりで、それだと、見た人は『すごいね、がんばってね』で終わる。活動に参加したいと思わせるような視点が欠けていました」

## 「活動を見直す機会に」とNPO、 「調整型の仕事の仕方を学ぶ」とプロボノ

お金で支援する寄付とは違い、また通常のボランティア活動とも違うプロボノ。それは、社会人がもつ「スキル」や「ノウハウ」を期間限定のプロジェクトを通して提供していく新しい社会貢献のかたちだが、何も受益者となるのはNPOだけではない。プロジェクトへの参加は、プロボノワーカーにとっても実りのある機会となったようだ。

「子どもの食育に関心をもつようになり、地元で同じような団体を見つけて地域活動に参加しようと思うほど影響を受けた」と大坪さん。藤原さんも「もともと家庭菜園をしていたので、自分もご近所さんと協力しながら、小さなところから資源循環をしたい」

また、渡辺さんは仕事のスキルアップにもつながると話す。「普段の仕事ではトップダウン的に仕切るので、初対面のメンバーの意見を調整し、NPOの思いに寄り添いながら、ベターな選択を積み重ねていくプロボノの仕事の進め方は新鮮だった。個人的なスキルとして、ウェブサイトの構築を学べたのもよかった」

もちろん、本業の合間に行うボランティアだけに、互いの時間調整には工夫が必要で、初めて会った異業種の者同士がチームを組むことには少しの不安も伴う。だが、期間限定のプロジェクトであることで適度な緊張感が生まれ、また多様なキャラクターとの協働作業にこそ新たな刺激と楽しみもある。「ある意味、仕事ではないので、自分のできる範囲で貢献できる。興味があれば、まずは参加してみたらいいのでは」とプロボノメンバー。

新たな刺激を受けたという意味では、団体側も同じだ。当初は、参加に躊躇していた高島さんと中村さんも思い切って一歩踏み出してよかったと話す。

「NPO側としては、ほとんど資金をかけずに済むというメリットがあるけど、それ以上に大きかったのはプロボノが自分たちの活動を問い直すいい機会になったということ。プロジェクトの中で整理してくれたさまざまな資料は、自分たちの活動をマネジメントしていく上でのとっかかりになると感じていて、逆に仕事として業者に依頼したら、ここまではやってくれないんじゃないかとも思う。日本のNPOの多くが脆弱な組織で苦しんでいる中で、企業で働く個人がプロボノというかたちで、どんどんかかわってくれば、日本の社会も変わるんじゃないかと期待しています」

## 花と緑のネットワークとよなか

地球環境を守る市民行動計画である「豊中アジェンダ21」の取り組みの一環として、99年に豊中市と事業者、市民の三者が協力して生ごみの堆肥化実験を実施。その後、01年の食品リサイクル法の制定をきっかけに、学校給食の食べ残しに街路樹の剪定枝を混合した土壌改良材「とよっぴー」を頒布・有効活用する団体として02年に発足した。地域の花づくりを通してコミュニティを創造する「花いっぱい運動」や農家と消費者を結ぶ野菜の直販活動、「とよっぴー農園」での環境体験学習など、「とよっぴー」を活用した多種多様な活動を展開している。

Panasonic

